

科目名	国際文化演習ⅡA				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照		
開講期	春学期	開講学部等	文化学部	配当年次	4年次
教員名	上田 真啓			単位数	2単位

授業概要／Course outline

「国際文化演習Ⅰ(ⅠA・ⅠB)」において学んできた、現代インドが抱える諸問題（ジェンダー、教育、政治、宗教等）やインドの多様な文化・歴史について、これまでに学んできた内容を踏まえ、それぞれが関心を持つテーマをさらに深化・発展させます。具体的には、各自が自分なりの問いを設定し、文献調査やフィールドワーク等を通じて探究を進め、自分なりの結論を導き出すことを目指します。最終的には、その成果を卒業レポートとして作成・提出し、自分なりの「インド観」の構築および創出を目標とします。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

演習

・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション）

クラス全体でのディスカッション、2～3名ずつのグループに分かれて行うグループワークを取り入れる他、受講生それぞれにプレゼンテーション（個人発表）を行ってまいります。

・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

状況に応じてオンデマンド授業を行うことがある。オンデマンド授業は、moodleを通じて動画を配信する。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 イン트로ダクション、長期休暇の間の活動成果報告

第2回 映像&ディスカッション

第3回 映像&ディスカッション

第4回 ワークショップ：「就活について語る」

第5回 卒論オリエンテーション（1）

第6回 卒論オリエンテーション（2）

第7回 卒論オリエンテーション（3）

★オンデマンド（1）生成AIとどう向き合うか：卒論執筆に向けて

第8回 春学期個人発表（1）

第9回 春学期個人発表（2）

第10回 春学期個人発表（3）

第11回 春学期個人発表（4）

第12回 春学期個人発表（5）

第13回 春学期個人発表（6）

第14回 春学期個人発表（7）

★オンデマンド（2）レポート作成についての説明

学期末レポート作成にあたって、レポート作成の方法などについての説明をオンデマンド授業でおこなう。

事前・事後学修／Preparation and assignments

第1回 イン트로ダクション、春休みの成果報告

【事前学習】参考文献リストの内の1冊以上を読み、インドの文化・社会・宗教等について予備知識を得ておく。

【事後学習】授業時に配布されたレジュメを再読する。

第2回 映像&ディスカッション（インドに関するもの）

【事前学習】参考文献リストの内の1冊以上を読み、インド社会についての理解を深めておく。

【事後学習】ディスカッションの場でも出された意見を整理しまとめておく。

第3回 映像&ディスカッション（インドに関するもの）

【事前学習】参考文献リストの内の1冊以上を読み、インド社会についての理解を深めておく。

【事後学習】ディスカッションの場でも出された意見を整理しまとめておく。

第4回 ワークショップ：「就活について語る」

【事前学習】就職活動における自身の経験を語れるように準備しておく。

【事後学習】他の受講生の意見を再確認する。

第5回 卒論オリエンテーション（1）

【事前学習】参考文献に挙げられている本あるいは各自で選んだ本を読み進め、卒業論文のテーマを考え始める。

【事後学習】授業時に配布されたプリントを再読する。

第6回 卒論オリエンテーション（2）

【事前学習】参考文献に挙げられている本あるいは各自で選んだ本を読み進め、卒業論文のテーマを考え始める。

【事後学習】授業時に配布されたプリントを再読する。

第7回 卒論オリエンテーション（3）

【事前学習】参考文献に挙げられている本あるいは各自で選んだ本を読み進め、卒業論文のテーマを考え始める。

【事後学習】授業時に配布されたプリントを再読する。

★オンデマンド（1）生成AIとどう向き合うか：卒論執筆に向けて

【事前学習】moodleにアップロードされた資料に目を通しておく。

【事後学習】発表資料の作成を進める。

第8回 春学期個人発表（1）

【事前学習】自分の興味・関心のあるテーマを設定し、関連する図書および資料の収集を始める。また自身の発表に向けて発表資料の準備を進める。

【事後学習】その回の発表者の発表資料を再読し、授業時になされた質疑応答の内容を再確認する。

第9回 春学期個人発表（2）

【事前学習】自分の興味・関心のあるテーマを設定し、関連する図書および資料の収集を始める。また自身の発表に向けて発表資料の準備を進める。

【事後学習】その回の発表者の発表資料を再読し、授業時になされた質疑応答の内容を再確認する。

第10回 春学期個人発表（3）

【事前学習】自分の興味・関心のあるテーマを設定し、関連する図書および資料の収集を始める。また自身の発表に向けて発表資料の準備を進める。

【事後学習】その回の発表者の発表資料を再読し、授業時になされた質疑応答の内容を再確認する。

第11回 春学期個人発表（4）

【事前学習】自分の興味・関心のあるテーマを設定し、関連する図書および資料の収集を始める。また自身の発表に向けて発表資料の準備を進める。

【事後学習】その回の発表者の発表資料を再読し、授業時になされた質疑応答の内容を再確認する。

第12回 春学期個人発表（5）

【事前学習】自分の興味・関心のあるテーマを設定し、関連する図書および資料の収集を行う。また自身の発表に向けて発表資料の準備を進める。

【事後学習】その回の発表者の発表資料を再読し、授業時になされた質疑応答の内容を再確認する。

第13回 春学期個人発表（6）

【事前学習】自分の興味・関心のあるテーマを設定し、関連する図書および資料の収集を行う。また自身の発表に向けて発表資料の準備を進める。

【事後学習】その回の発表者の発表資料を再読し、授業時になされた質疑応答の内容を再確認する。

第14回 春学期個人発表（7）

【事前学習】自分の興味・関心のあるテーマを設定し、関連する図書および資料の収集を行う。また自身の発表に向けて発表資料の準備を進める。

【事後学習】その回の発表者の発表資料を再読し、授業時になされた質疑応答の内容を再確認する。

★オンデマンド（2）学期末レポートおよび卒業論文を執筆にするにあたって

【事前学習】『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』の一部または全体を読み、学期末レポートおよび卒業論文を書く際の留意事項を押さえておく。

【事後学習】学期末レポートの作成を開始する。

授業の到達目標／Expected outcome

・インドの思想・宗教・文化・歴史など、特定のテーマ・領域について正確で深い知識を有し、調査・研究を行う

ための方法論（関連資料の読解、言説分析、フィールドワークの方法等）を身につけることを目指す。

- ・インド思想に関する調査・研究、発表、ディスカッション等を通して、多様な価値観と柔軟なものの見方、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を培うことを目指す。
- ・グローバルな視点からインド思想を理解し、その特色や重要性を世界に向けて発信できるようになる。
- ・2年間の集大成として卒業論文を作成・提出することを最大の目標とする。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- ・主体性 専門知識・専門技能
- ・発信力 【文化学部 国際文化学科】
 - ・人文学に関する知識
 - ・地域文化に関する知識

履修上の注意／Special notes, cautions

- ・無断欠席は厳禁とする。やむを得ない事情で欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
- ・ディスカッション時は、積極的に発言すること。
- ・一人一人がゼミに不可欠な一員であることを自覚して、協調性をもちながらゼミを盛り上げるように務めること。
- ・同担当者による「インド思想」「インドの言語と文化」をあわせて履修することが望ましい。

評価方法／Evaluation

平常点（授業への参加度、課題に取り組む姿勢、発表内容、プレゼンテーション、ディスカッションの発言、ゼミへの貢献度）60～70%、学期末レポート30～40%

教材／Text and materials

授業時にレジメを配布する。主な参考文献は以下のとおり。

- ・木下是雄『理科系の作文技術』，中央公論新社，1981
- ・酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』第2版，共立出版，2017
- ・戸田山和久『最新版 論文の教室：レポートから卒論まで』，NHK出版，2022
- ・田中草大『#卒論修論一口指南』，文学通信，2022
- ・伊藤貴之『生成AIを活用したレポート・論文の書き方』，慶應義塾大学出版会，2026
- ・宮本常一・安溪 遊地『調査されるという迷惑』増補版，みずのわ出版，2024
- ・山崎元一，『インド社会と新仏教』，刀水書房，1979
- ・辛島昇・奈良康明，『インドの顔』，河出書房新社，1999
- ・小谷汪之，『穢れと規範—選民差別の歴史的文脈』，明石書店，1999
- ・ウルワシー・ブターリア（藤岡恵美子訳），『沈黙の向こう側』，明石書店，2002
- ・スバドラー・ブターリア（鳥井千代香訳），『ダウリーと戦い続けて』，つげ書房新社，2005
- ・小谷汪之，『罪の文化—インド史の底流』，東京大学出版，2005
- ・小磯千尋・小磯学，『インド』（世界の食文化8），農文協，2006
- ・榎本美樹，『インドの「闘う」仏教徒たち』，風響社，2010
- ・金基淑，『カーストから現代インドを知るための30章（エリア・スタディーズ）』，明石書店，2012
- ・松尾瑞穂，『インドにおける代理出産の文化論』，風響社，2013
- ・井田克征，『世界を動かす聖者たち』，平凡社，2014
- ・田中鉄也，『インド人ビジネスマンとヒンドゥー寺院運営』，2014
- ・山下博司・岡光信子，『新版 インドを知る事典』，東京堂出版，2016
- ・リジー・コリンガム（東郷えりか訳），『インドカレー伝』，河出書房新社，2016
- ・拓徹，『インド人の謎』，星海社新書，2016
- ・上田真啓，『ジャイナ教とは何か』，風響社，2017
- ・井坂理穂・山根聡編，『食から描くインド』，春風社，2019
- ・辛島昇，『インド文化入門』，ちくま学芸文庫，2020
- ・佐藤大介，『13億人のトイレ—下から見た経済大国インド』，株式会社KADOKAWA，2020
- ・辛島昇，『インド史』，角川ソフィア文庫，2021
- ・水島司監修，『一冊でわかるインド史』，河出書房新社，2021
- ・小磯千尋・小松久恵編，『インド文化読本』，丸善出版，2022
- ・鈴木真弥，『カーストとは何か』，中央公論新社，2024

質問や相談の方法／Instructor contact

- ・連絡先：moodleに記載するメールアドレス

・授業に関する質問や相談などがある場合は、メールにて質問すること。